

二十歳の集い



二十歳の集い



真剣な表情の参加者



記念品贈呈 飯島彩心さん



アンカンミンカン富所哲平さん

1月12日(日)、カルチャーセンターにおいて、令和6年度みなかみ町二十歳の集いが開催されました。ロビーでは、晴れやかな姿で集まった二十歳の集い参加者が、仲間たちとの久しぶりの再会を心から喜んでいました。



式典では、門出の日を迎えた祝福と温かい激励を込めた祝辞が送られ、参加者たちは真剣な表情で受け止めていました。また、式典に参加する保護者の方々の姿も見られ、節目となる二十歳の集いは本人たちだけでなく、見守る側にとっても特別な一日となりました。当日は110名(男性47名、女性63名)の参加者が参列し、夢や目標に向かって進む決意を新たにしました。記念品贈呈では、二十歳の集い実行委員長の林幸生さんがデザインしたオリジナルタンブラーを、代表の飯島彩心さんが田村教育長から受け取りました。

記念講演では群馬県住みます芸人のアンカンミンカン富所哲平さんをお招きし、環境問題を題材に、物事の「つながり」や本質を見極める大切さを伝えていただきました。

令和6年度みなかみ町 二十歳の集い

二十歳の集い

二十歳の集い



誓いの言葉



林 幸生 さん

成人としての誇りを持ち、強い心と体をつくり、自主自立の精神を持ってこれからの社会に向かっていくことを誓います。

自主的な人間になるために

私たちは生涯学習時代を迎えた今日、自己の個性を伸ばすとともに他人の個性をも尊重し、創造的な人間になるための努力をすることを誓います。

真に誠実な人間であるために

私たちは郷土を愛し、心豊かで誠実な真に美しい人間でありたいと願い、その姿を目指していくことを誓います。

よい社会人であるために

私たちはみなかみ町を誇りに思い、この故郷を愛し、地域社会の発展のために弛みない努力をしていくことを誓います。

答辞



小川 夏希 さん

かつて同じ学び舎とともに生活した仲間たちと久しぶりに再会し、これまでの二十年間という年月を振り返ると、あつという間という言葉では一括りにできないたくさんの思いが蘇ります。

同じ教室で学び、部活に励んだ日々は、当時はなんてことなかった日常ですが、今となっては大切な思い出です。今、みなかみ町で同じ時を過ごした仲間たちは、それぞれの道を歩んでいます。
みなかみ町は、「この町に生まれ育つことができて良かった」と心から思えるふるさとです。水と緑の豊かな自然があることがみなかみ町の魅力であることは確かですが、私にとっては小さなころから見てきた景色があり、ここにいる仲間と共に過ごしたみなかみ町だからこそこの町が好きで、帰ってきたいと思える町です。そんなみなかみ町を次の世代へ繋ぎ、自慢のふるさとだと思ってもらえるようそれぞれの立場で努力していきたいです。(一部抜粋)